

## 「海外実習」を通じた国際理解教育の試み

### 背景・目的

国際文化学科では、学科創設以来、毎年、海外実習を実施してきている。今年度はタイ（8月5日～21日）とフランス（8月24日～9月15日）で行った。本教育研究は、この海外実習の実施を通して、どうすれば参加学生の異文化や外国語の理解が深まるか、さらに、国際交流や国際観光など国際理解教育の諸課題を現場で体験的に学ばせるにはどのような方法が有効かを考察することを目的とするものである。



### 実施内容

まず、タイ実習については、世界有数の「観光立国」であるタイを訪れて、同地の国際インバウンド観光と、次の諸点（①環境問題と災害、②女性／ジェンダー／マイノリティ、③日タイ交流、④食文化、⑤ホスピタリティ、⑥自然の観光資源化）との関わりについて調査し、観光人類学／社会学的な視点からの理解を深めた。

学生はテーマ毎にグループを組み、「海外実習講義」における事前学習に基づき、調査活動を行った。タイでの調査に際しては、英語による情報収集が困難なため、タイの大学生や NPO 関係者などに、調査補助者として同行してもらった。加えて、異文化交流体験という観点から、タイの大学生や子どもたちとの交流、寺院や史跡などのタイ文化に触れる機会を設けた。

次に、フランス実習について述べると、最初にノルマンディ地方のカンで 2 週間のフランス語研修を行った。カン滞在中、ノルマンディ公ギヨームやノルマンディ上陸作戦など、同地方の歴史や文化を学ぶことともに、モンサンミッシェルとサンマロを訪れ、フランスの多様性を学んだ。カンでは折紙や書道など日本文化の紹介をフランス語で行い、大学関係者やホストファミリーの参加者を得て、大好評であった。

また、トゥール周辺に点在するロワールの古城を訪ねて、フランス王国時代の歴史を学んだ。最後にフランス文化の中心都市であるパリに残るルーヴル美術館やオルセー美術館などに収蔵されている優れた美術作品や文化遺産に触れ、さらに見聞を広げた。



### 結果及び考察

各実習では、ホームステイ、グループ活動、現地学生との共同作業、文化紹介など、様々な教育学習方法が組み込まれていた。それによって、異文化や研究課題の理解が深められ、諸方法の有効性、限界、注意点も再確認された。

また両実習とも、諸活動を通して、ある程度、学生が自分で考える力が身につき、状況適応力やコミュニケーション能力も養われたと判断され、学生自身のキャリア形成に資するものとなったと考えられる。